

信州大学大学院 総合医理工学研究科 の設置について

—新しい医理工系博士人材の育成を目指して—

本学は、新しい時代に対応した博士人材の養成を目指し、大学院博士課程の「医学系研究科」と「総合工学系研究科」を統合再編し、新たに「総合医理工学研究科」を平成30年4月に設置します。

総合医理工学研究科には、これまで両研究科がそれぞれ3専攻と5専攻に細分化されていたものを、学問体系の本質に対応する「医学系専攻」、「総合理工学専攻」の2専攻に加えて、理学・工学・農学・繊維学と医学との連携による「生命医工学専攻」を設置し、3専攻に再編します。

特に、医学系と生命医工学専攻では、一つの専攻で4年制(博士[医学])と3年制(博士[保健学]もしくは博士[医工学])の学位を授与する日本で初めてのカリキュラムを実施します。

平成29年9月11日

総合医理工学研究科改組の背景・現状

社会からの期待・要請

- 現在、我が国は、超高齢化に対応する医療・健康・福祉、イノベーション創出のための科学技術の開発、エネルギー確保、水資源の確保や環境保全といった課題が山積している。
- これらの課題は複数の分野の課題が複雑に絡み合っていることも多く、1つの課題の解決策が他の課題の解決を妨げたり新たな課題を生じさせたりする場合があるため、部分最適ではなく全体最適の解決を図ることができる人材が強く求められている。
- 長野県においては、世界展開を目指す企業も多く、これらの企業の中には、より高いレベルでのイノベーションを支える専門技術者への要請が強い。
- また、全国で最も速いスピードで超高齢化が進行している地域でもあり、医療・健康・福祉に寄与する分野の技術革新を目指す企業が増加していることから、当該分野の教育研究への期待が高まっている。

信州大学大学院博士課程の現状

- 平成28年度に大学院修士課程の理工学系研究科と農学研究科とを統合再編して「総合理工学研究科」を設置し、医工連携分野である「生命医工学専攻」を新設し、修士レベルの教育研究の充実を図ってきた。
- 社会的課題に応えるため、本学が世界水準の強みを有する研究分野に教育・研究資源を集中し、先鋭領域融合研究群(カーボン科学、環境・エネルギー材料科学、国際ファイバー工学、バイオメディカル、山岳科学の5研究所)を設置した。研究成果は次世代の人材育成にも反映させることとし、研究群と連携した学部・大学院教育を実施している。
- 博士課程・医学系研究科及び総合工学系研究科において、本学の特色を活かした教育研究を行ってきた。社会人入学も多く、日本一の超高齢社会が進展する長野県における高度医療や、製造業をはじめとする地域産業の発展に寄与してきているが、さらに社会的要請が強い分野への博士人材の輩出が急務である。
- 近年の社会的課題は多くの分野が複雑に絡み合っており、専門分野の高度な知識や技能のみでは対応が難しく、専門分野以外の課題を見渡すとともに自身の研究課題の社会的意義を認識する俯瞰力、課題の本質を見抜き解決方法を見出す洞察力、専門分野近傍の課題に対して新たな知見・技術を見出す応用力が必須である。
- 先鋭領域融合研究群と連携した博士課程教育を行うことが有効であるが、研究群が部局横断であるのに対し、博士課程は医学系研究科と総合工学系研究科との2研究科体制であるため、両研究科に跨る生命医工学分野の教育をはじめ、組織面において研究群と連携しにくい分野が生じている。
- 研究科が2つに分かれ、医学系研究科が3専攻、総合工学系研究科が5専攻となっているため、修得する能力について、研究分野の特性や組織体制上、研究科や専攻により若干の差異が生じている。

総合医理工学研究科改組の観点

総合医理工学研究科改組の観点

現状の課題を解決し、社会からの要請に応えるため、次の観点により博士課程を再構築する。

- ① 超高齢社会の医療・福祉を支える生命医工学分野の人材を育成するため、修士課程に新設した生命医工学専攻の学年進行に対応し、博士課程に生命医工学専攻を設置する。
- ② 先鋭領域融合研究群と連携した博士課程教育を行う。
- ① 俯瞰力、洞察力及び応用力を養うため、研究科や専攻といった階層ごとに、全学生が共通して一定以上のレベルに到達できるよう教育課程を編成する。

統合再編の骨子(1)

1. 医学系研究科と総合工学系研究科の統合再編

深い専門知識と応用力・洞察力・俯瞰力を兼ね備えた新しい研究開発人材育成のための教育課程を実施するために医学系研究科(3専攻)と総合工学系研究科(5専攻)を、医学系専攻、総合理工学専攻並びに生命医工学専攻の3専攻より構成される総合医理工学研究科へ統合再編成する。

このことにより、現行では医学系研究科と総合工学系研究科とに跨る生命医工学専攻の人材育成が効果的に行えることはもちろん、部局横断の先鋭領域融合研究群と連携した教育がより柔軟に実施できる。

2. 教育課程編成の充実

研究科や専攻といった階層ごとに、全学生に一定レベル以上の共通的な能力を保証するため、共通科目を置く。研究科には、博士課程の全学生が共通して俯瞰力を修得するための研究科共通科目を置く。可能な限り幅広い研究分野を見渡し、自身の研究課題の社会的意義を再認識できるよう、研究科レベルの全学生必修科目とし、先鋭領域融合研究群所属の教員が自身の最先端研究の本質を講義する「先鋭領域融合研究群最先端研究特講」を開講する。

専攻には、専攻内の全学生が共通して洞察力及び応用力を修得するための専攻共通科目や分野共通科目等を置く。専門性に配慮しつつ共通の必須能力として身につけられるよう、専攻または分野レベルの全学生必修科目や選択必修科目とする。医学系分野、理工学系分野、生命医工学分野という大括りの研究分野内において、異なる専門分野の学生との討論や発表、レポート作成等を行う。

3. 研究指導体制の充実・学位審査体制の厳格化

俯瞰力、洞察力、応用力を醸成しつつ、博士の高い専門性を保証するため、授業科目のみならず、研究指導においても、副指導教員の少なくとも1名は異なる研究分野の教員をもって充てる。また、学位審査においては、本学以外の大学等教育研究機関の外部審査委員を審査委員(副査)として少なくとも1名加えることにより、厳格な学位審査を保証する。

統合再編の骨子(2)

4. 生命医工学分野の新設と既存分野の充実

少子高齢化の急激な進行により喫緊な課題となっている**生命・医療・健康・福祉・食料**に貢献する人材を育成するために、理工農学系分野に加えて**医学系分野**の教育資源を結集して**生命医工学専攻**を設置する。先端生命工学研究者、先端医療機器開発技術者、医療機関における先端医療機器運用の管理者等を目指す学生のために生命工学分野と生体医工学分野に対応する教育プログラムを用意した。学士課程(医学部)から直接進学する学生と修士課程から進学する学生のためにそれぞれに対応した**4年制コース**と**3年制コース**を用意する。

5. 医学系分野及び理工農学系分野の充実

少子高齢化の急激な進行により喫緊な課題となっている**生命・医療・健康・福祉・食料**に貢献する人材を育成するために、理工農学系分野の教育カリキュラムを充実する。**深い専門知識と応用力・洞察力・俯瞰力を兼ね備えた**先端理工学研究者、先端技術開発者、グローバルに活躍する管理者等を目指す学生のために**専攻共通科目**を用意する。

医学系専攻:医学(4年制コース)と保健学(3年制コース)分野が一専攻になることにより、**医療・健康・福祉を総合的に捉えられる俯瞰力**と**専門的研究力**を兼ね備えた医療技術者が育成できる。

総合理工学専攻:総合工学系研究科(5専攻)が1専攻になることにより、専攻共通科目の受講や他分野の副指導教員の研究指導を通じて、専門に比較的近い分野の知識や研究手法を会得でき、**課題解決における総合的な判断力**を養うことが可能となる。

6. 副学長(大学院担当)と大学院室による企画運営及び統括

大学院担当の副学長を置き、学長のガバナンスを保証する。また、担当副学長の直下に設置した**大学院室**が分散キャンパスの企画運営及び統括を担当することにより、機能的・効率的な運営が可能となる。

改組の概要

医学系研究科

専攻	入学定員	学位
医学系専攻	40名	博士(医学)
疾患予防医科学系専攻	8名	
保健学専攻	4名	博士(保健学)
計	52名	

総合工学系研究科

専攻	入学定員	学位
生命機能・ファイバー工学専攻	15名	博士(学術) 博士(理学) 博士(工学) 博士(農学)
システム開発工学専攻	12名	
物質創成科学専攻	7名	
山岳地域環境科学専攻	8名	
生物・食料科学専攻	7名	
計	49名	



2研究科8専攻
(101名)
↓
1研究科3専攻
(101名)

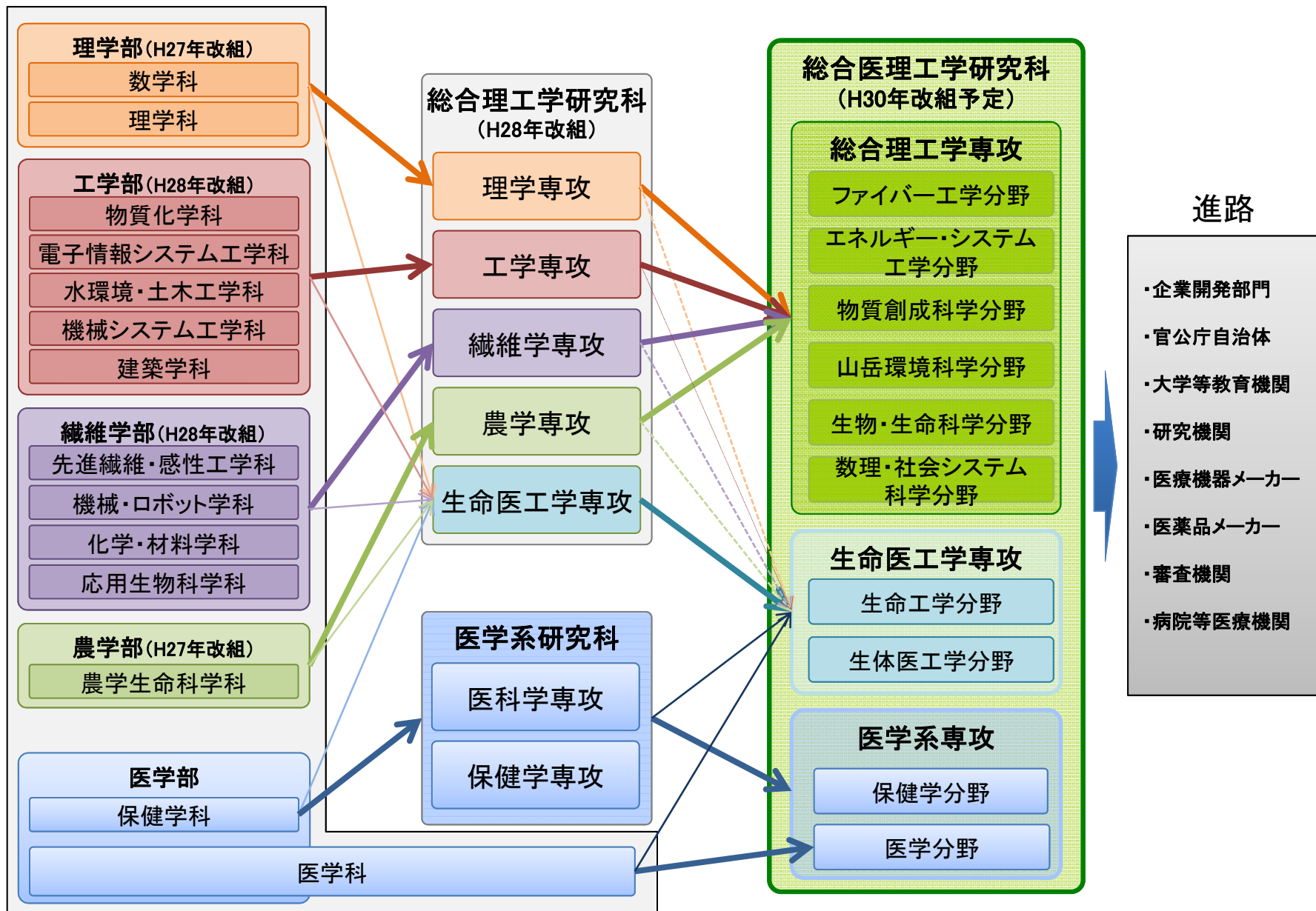
総合医理工学研究科

専攻(分野)	入学定員	学位
医学系専攻 (医学、保健学)	48名	博士(医学) 博士(保健学)
生命医工学専攻 (生命工学、生体医工学)	15名	博士(医学) 博士(医工学)
総合理工学専攻 (ファイバー工学、 エネルギー・システム工学、 物質創成科学、 山岳環境科学、 生物・生命科学、 数理・社会システム科学)	38名	博士(学術) 博士(理学) 博士(工学) 博士(農学)
計	101名	

総合医理工学研究科の教育課程

		医学系専攻 4年制コース(医学分野) 修了要件:32単位以上		生命医工学専攻 医学系4年制コース 修了要件:32単位以上		総合理工学専攻	
研究への展開 応用科目の履修	4年次	3年制コース (保健学分野) 修了要件:18単位以上	博士論文	博士論文	理工学系 3年制コース 修了要件:16単位以上	3年制コース 修了要件:16単位以上	
	3年次	博士論文 専門科目 必修 6単位	博士論文 専門科目 必修 10単位	博士論文 専門科目 必修 4単位	博士論文	博士論文	
	2年次	博士論文	専門科目 必修 2単位	博士論文 分野共通科目 必修 2単位	博士論文 分野共通科目 必修 2単位	博士論文 専門科目 必修 2単位 選択必修 4単位 選択 4単位	
	1年次	博士論文 専門科目 必修 2単位 選択必修 2単位 分野共通科目 必修 2単位	専門科目 選択必修 6単位 分野共通科目 必修 2単位 選択必修 6単位	専門科目 必修 4単位 選択必修 14単位 分野共通科目 必修 2単位	博士論文 専門科目 選択必修 6単位 分野共通科目 必修 2単位	博士論文	
		専攻共通科目 必修 2単位、選択必修 2単位		専攻共通科目 必修 4単位		専攻共通科目 必修 2単位、選択必修 2単位	
		研究科共通科目 必修 2単位					

教育課程 ～学士・修士・博士課程の接続と進路～



総合医理工学研究科において養成する人材像・能力

【養成する人材像】

- ◆ 人類の福祉や持続可能な社会の実現のために、医学・保健・福祉や科学・技術の発展に貢献できる高度専門職業人・研究者。
- ◆ 世界を先導する研究に取り組む人材。
- ◆ 専門分野の枠を越えた学際分野の課題に対しても積極的に挑戦する人材。

【養成する能力】

医学，保健学，理学，工学，農学，生命医工学の各専門分野の深い知識・技能と，社会の変化への柔軟な対応力を兼ね備え，社会に寄与する有為な高度専門職業人・研究者を養成するため以下の能力を共通的必須能力として修得させる。

- 専門分野以外の課題を見渡すとともに自身の研究課題の社会的意義を再認識する俯瞰力。
- 高度専門職業人・研究者として科学・技術を発展させるための健全な倫理観。

研究科の特色 (専攻共通科目及び研究科共通科目)

複合化して単純に解決できない課題に取り組むためには、中核となる技術課題を解決する深い専門知識と技能に加えて広い視野で問題を捉え解決の方策を探索する総合的な洞察力・俯瞰力が不可欠である。

総合的な課題解決能力や俯瞰力を醸成するためには、専門分野近傍の領域の知識や医学系、理工農学系及び人社系分野全体の基本的な知識も不可欠である。このため、大括りした各専攻に所属する学生は「専攻共通科目」(全専攻4単位選択必修)を、さらに研究科の「研究科共通科目」(全専攻2単位必修)を受講する。

全ての在籍院生に対してCITI-Japanの認証獲得を修了要件とは別に義務化し、研究者・技術者倫理教育においては社会的責任感を身に付けさせる。

[専攻共通科目] (4単位選択必修)

医学系専攻	生命倫理・研究倫理特論(2) [必修] 医学統計・疫学特論(2) [選択必修]、生涯保健学研究法特論(2) [選択必修]
総合理工学専攻	特別課題演習(研究会・学会演習)(2) [必修] 科学技術政策特論(2) [選択必修]、学外研修(2) [選択必修]
生命医工学専攻	社会医工学特論(2) [必修]、イノベーションセミナー(2) [必修] 企業/行政/病院インターンシップ(1) [選択]

[研究科共通科目] (2単位必修)

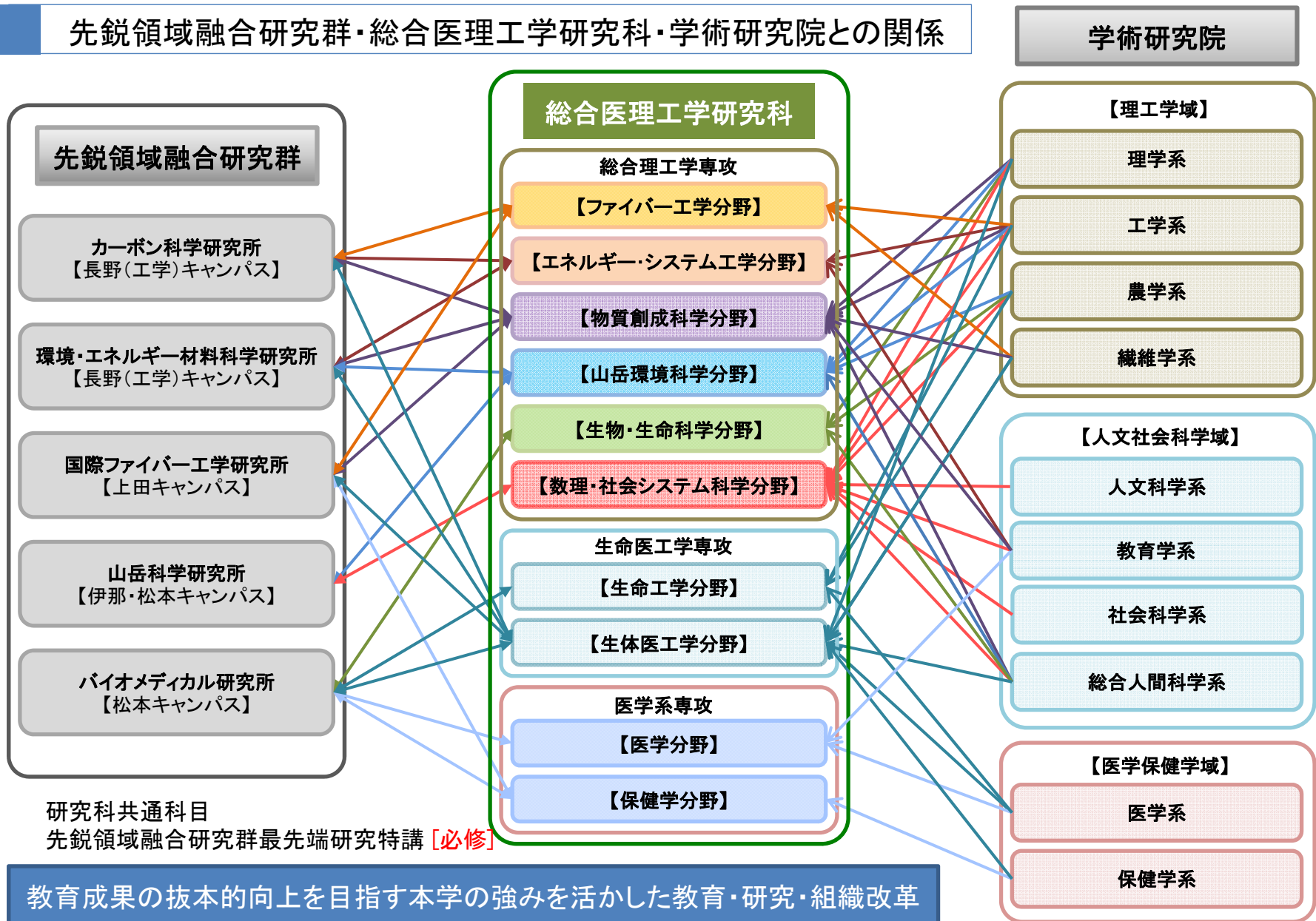
先鋭領域融合研究群最先端研究特講(2) [必修]
特別招へい教授グローバル研究特講(2) [選択]
知財管理特講(2) [選択]

[修了要件外]

CITI-Japan [認証取得を義務化]

新教育研究体制の特色

先鋭領域融合研究群・総合医理工学研究科・学術研究院との関係



各専攻・分野の特色(医学系専攻[1])

【医学系専攻】

医学系専攻は、「**医学分野**」と「**保健学分野**」の2分野から構成されている。本専攻の目的は全人的・学際的教育を通じて、豊かな人間性と高度な基礎的・臨床的研究能力を有する**医療専門職者**を社会に輩出し、わが国における医学・保健学の発展並びに健康長寿に寄与することである。

本医学系専攻では医学部医学科を卒業し、学士(医学)を取得した医師、医科学修士課程を修了し、修士(医学)を取得した研究者、保健学修士課程を修了し、保健学系修士を取得した看護師、助産師、保健師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士等の保健医療職者が同じ専攻に所属することによって、**異なる職種**の観点から医学系における様々な課題を共有し、**幅広い視野**を有して研究活動を行うことが可能となることを特色としている。

加えて、**研究倫理教育**においてはCITI-Japanプロジェクトの中心的な役割を担っている本学において、生命倫理に関する教育を医学系専攻共通科目として履修する。このことにより、高い倫理観と豊かな人間性を有し、高度な専門知識・技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力を有する**医学研究者**及び**高度医療専門職業人**、**高度保健医療専門職業人**を育成する。

各専攻・分野の特色(医学系専攻[2])

【医学分野】

「医学分野」では、国際的な視野に立ち、自ら独創性の高い医科学研究を遂行、指導できる教育・研究指導者を養成すること、並びに高度な医科学を修め、優れた臨床診療能力と研究能力を兼ね備えた**地域医療リーダー**を養成することを目的としている。また、本分野に備わる基礎医学的・臨床医学的教育資源を存分に活用し、学際的な研究を推進することに加えて、高度な創造的医学研究のみならず、高齢化社会における包括的予防・医療の充実と進展に貢献できるような疾患の予防・診断・治療に繋がる**トランスレーショナルリサーチ**も推進する。

これらの目的を達成するため、医学分野では、授業科目を生体制御学ユニット、腫瘍学ユニット、再生・再建学ユニット、脳・感覚機能学ユニット、健康・社会医学ユニットの5つに区分し、大学院生の専門性に則した授業を履修できるような体制を構築すると共に、**基礎・臨床医学の双方の教員からの研究指導**を受けられるようにしているという点が、本分野の特色である。

「医学分野」の特色である、この大学院生と二人の指導教員の組み合わせ(セル)は、大学院生の要望に応じて大学院生の数だけ構成され、本専攻の教育ユニットを成し、このセルによる教育を通して**基礎・臨床医学融合型の多元的な創造的研究・応用研究**を推進している。

【保健学分野】

「保健学分野」では、人間を精神的、身体的、社会的な側面から全人的な存在として捉え、人々の健康、疾病及び障害について、広い学問的視野に立ち、個人並びに集団の健康を学際的に探求することのできる**高度保健医療専門職業人**を養成することを目的としている。

また、学際的な保健学領域における教育・研究を通して、その成果を社会に還元し、人々の健康支援を行い、積極的に疾病の予防を推進することにより、人類の健康寿命の延伸とQOLの向上に貢献する。

これらの目的を達成するために、保健学分野では、人のライフステージからみた保健学の在り方を俯瞰的に探求する**母子保健学、成人保健学、老年保健学の3ユニット**と、それらの在り方を基礎科学・基礎医学的な視点から探求する**医療生命科学ユニット**を設け、基礎研究と実践研究の両面から、長寿県長野を中心としたわが国における**健康長寿を支えていくための保健学研究の在り方に関する教育と研究成果の発信を進めている**という点、及び「**根拠に基づいた実践(Evidence-based Practice、EBP)**」の概念と手法を教育することにより、保健学におけるEBPを推進していくためのリーダーの育成に努めている。

各専攻・分野の特色(総合理工学専攻[1])

【総合理工学専攻】

総合理工学専攻では、応用的・学際的な「理学」、「工学」及び「農学」分野における諸課題に対し、広い視野で問題を捉え、解決の方策を探究する**総合的な洞察力・俯瞰力**を育成することを目的としています。**各専門分野の深い知識・技能**に加えて、専門分野近傍の領域の知識や理工農学系分野全体の基本的な知識を有し、科学技術と環境保全との調和に関心を持ち、**学際的技術の研究開発や国際化に対応できる高度な技術者**を養成する。このため、各分野の専門科目に加えて、専攻共通科目(4単位)を履修させる。

【ファイバー工学分野】

ファイバー工学は、衣料繊維分野だけでなく、各種産業素材分野、電気・電子工学分野、土木・建築分野、医用工学分野など極めて広範囲の技術・科学分野への拡がりを持ち、さらにインテリジェントテキスタイル分野へも展開している。ファイバー工学分野では、フロンティアファイバー工学、バイオファイバー工学、スマート材料工学、感性・ファッション工学に関する教育研究を推進し、急速に変貌を遂げつつある繊維産業及び繊維工学技術を導入した新しいものづくりをめざす産業分野において、**ファイバー工学基盤技術をもとに新たな発展を先導できる研究者や高度専門職業人**を育成する。

【エネルギー・システム工学分野】

エネルギーの有効活用と複雑系システムの最適運用技術に関する教育研究をとおして、**地球規模の持続可能な社会経済活動を支える高度人材**を養成する。多様なエネルギー資源を有効活用するエネルギーシステムの基盤技術として、エネルギー材料工学の深耕と新材料の創成、これらのエネルギーデバイスやシステムへの応用展開、複雑系システムの最適運用技術に関する教育研究を推進し、専門分野の先端的な知識と技能に併せて、エネルギーの有効利用とシステム全体を俯瞰して研究開発を推進できる能力を持つ先導的研究者や高度専門職業人を養成する。

【物質創成科学分野】

自然現象を物質科学的立場から捉え、その基本原理を解き明かし、自立的に多様な応用研究を展開できる知識・能力を持った人材を育成する。分野内の教員に加えて先鋭領域融合研究群の関係する各研究所の教員等の指導により新しい機能を持つ物質、素材・素子の研究開発に不可欠な知識と能力を持つ**先導的研究者や高度専門職業人**を育成する。

各専攻・分野の特色(総合理工学専攻[2])

【山岳環境科学分野】

本学の位置する立地条件を活かし、生物多様性、物質循環、災害メカニズムなどの自然環境の特性に関する基礎研究から、環境修復・維持、資源の有効利用、防災に関する技術開発といった応用研究まで様々な視点から先端的な教育研究を行う。地域から地球規模までの様々なスケールで環境と人間生活にに関わる諸問題に**広い視野からアプローチできる研究者や高度専門職業人**を育成する。

【生物・生命科学分野】

生命活動を分子、細胞、生物個体及び集団レベルで深く理解し、その知見を食料生産、先進医療、医薬品開発、バイオエネルギー生産等に関わる分野に応用することを目的とした教育研究を展開する。これらの活動を通して、分子生物学や生化学、構造生物学、遺伝子工学、生物工学、食品化学、植物生産学、動物生産学、食料生産科学、資源環境科学といった専門分野に関する高度な知識と技術を涵養し、**生物・生命・食料科学分野で活躍できる高度専門職業人や技術者、研究者**の育成を目指す。高度な専門知識の修得のみならず、独創的な研究遂行能力やグローバルな情報発信能力を修得できる教育・研究体制となっている。

【数理・社会システム科学分野】

理工学系に、社会科学系の分野を学際的に統合し、新たなカリキュラムを構築することで、技術上の問題を倫理観や社会システム上の問題として捉え、**複眼的な視野をもって社会が掲げるリスクや諸問題に取り組むことのできる研究者や高度専門職業人**を育成する。例えば、社会システム上の課題について、数理科学的手法を駆使して解決できる**高度専門職業人**を育成する。

各専攻・分野の特色(生命医工学専攻)

【生命医工学専攻】

超高齢化社会において健康寿命を延伸するための、**生命・医療・健康・福祉の研究開発を担う人材**を育成する。この目的のために、理工農学系と医学系の学生が同じ専攻に所属し、一体となって生命医工学を学び、異分野の考え方や研究方法を修得する「**真の医工連携大学院**」を創設する。生命工学分野・生体医工学分野とも、**博士(医工学)を授与する3年制コースと博士(医学)を授与する4年制コース**を設ける。本専攻は先鋭領域融合研究群と連携することにより、レベルの高い多角的な研究を基盤とした教育を行う。また、外国人特別招へい教授・外国人研究者の大学院教育・研究への参画や海外留学を広汎に実施し、グローバルな人材を育成する。本学教員と国内外の他大学教員・医療機関医師・第一線の企業研究者・行政機関職員などが一体となって教育・研究を実施する。大学院で多角的な融合・連携を実践することにより、境界領域の新知見を見出し世界に発信する研究者、広い視野から産学官連携研究を牽引するリーダーなど、**時代が求める独創的な人材**を輩出する。

【生命工学分野】

再生医療・創薬・食品・予防医学などの領域で重要な「**生命工学**」を、**理工農学系と医学系が融合して学ぶ**。日本・世界の生命(バイオ)・医療・健康の発展に寄与する人材を育成することを目指す。主として修士課程生命医工学専攻の「生命工学分野」を修了した学生と、医学部医学科を卒業し生命工学を研究分野とする学生が一体となって研究を進める。

【生体医工学分野】

医療機器・福祉機器開発など医工連携が基盤となる「**生体医工学**」を、**大学院時代から理工農学系と医学系が一体となって学ぶ**。将来の医療・健康・福祉の発展に貢献する真の医工連携研究者を育成することを目指す。主として修士課程生命医工学専攻の「生体医工学分野」を修了した学生と、医学部医学科を卒業し生体医工学を研究分野とする学生が一体となって研究を進める。

入学者選抜試験日程

選抜試験は、各専攻毎に実施します。日程等異なりますので、ご注意ください。
詳細については、各専攻の窓口にお問い合わせください。

	医学系専攻			総合理工学専攻
	医学分野		保健学分野	全分野
	一般選抜・社会人入試 《一次募集》	一般選抜・社会人入試 《二次募集》 ★定員に達しない場合	一般選抜	一般選抜 《春季選抜》
	平成30年4月入学	平成30年4月入学	平成30年4月入学	平成30年4月入学 平成30年10月入学
出願期間	平成30年1月22日(月) ～ 平成30年2月6日(火)	平成30年2月23日(金) ～ 平成30年3月1日(木)	平成29年11月15日(水) ～ 平成29年11月21日(火)	平成29年12月5日(火) ～ 平成29年12月13日(水)
試験日	平成30年2月21日(水)	平成30年3月12日(月)	平成29年12月17日(日)	平成30年1月30日(火)
	生命医工学専攻			
	全分野			
	3年制コース	4年制コース		
	一般選抜 《春季選抜》	一般選抜・社会人入試 《一次募集》	一般選抜・社会人入試 《二次募集》 ★定員に達しない場合	
	平成30年4月入学 平成30年10月入学	平成30年4月入学 平成30年10月入学	平成30年4月入学	
出願期間	平成29年12月5日(火) ～ 平成29年12月13日(水)	平成30年1月22日(月) ～ 平成30年2月6日(火)	平成30年2月23日(金) ～ 平成30年3月1日(木)	
試験日	平成30年1月30日(火)	平成30年2月21日(水)	平成30年3月12日(月)	

お問合せ窓口

代表連絡先

〒390-8621
長野県松本市旭3-1-1
学務部学務課大学院室
TEL : 0263-37-2863
FAX : 0263-36-3044
E-mail : sogoiriko@shinshu-u.ac.jp

各専攻の連絡先

【医学系専攻】 【生命医工学専攻・4年制コース】

医学部大学院係
〒390-8621
長野県松本市旭3-1-1
TEL : 0263-37-3376
FAX : 0263-37-3080

【総合理工学専攻】 【生命医工学専攻・3年制コース】

学務部学務課大学院室
〒390-8621
長野県松本市旭3-1-1
TEL : 0263-37-2863
FAX : 0263-36-3044